

釈尊が生まれた地

インドはいまやアメリカ、ロシア、そして中国と同じ世界の大国です。人口13億人、携帯電話10億個、テレビ、ラジオ局は1000局を超えました。

しかし何といっても釈尊、お釈迦様の国です。私は学生時代からお釈迦様の研究でインドへは頻繁に訪れ、長期滞在もしてきました。だいぶ齢を重ねましたが、インド行きが決ま



羊に乗って学校へ行くお釈迦様

ると元気が出てきて、インドから帰ると「先生、若返りましたね」とからかわれることもしばしばです。そうした中、編集部から「仏教を開かれたお釈迦様の聖地を訪れたことのない僧侶がたくさんいます。ぜひ、先生にお釈迦様の国、インドとお釈迦様の話を書いて下さい」と頼まりました。学者畑を歩いてきたので、柔らかい文章は不得手ですが、おつきあいただければ幸いです。

さて、お釈迦様のお生まれはいまのネパール南部テライと呼ばれる地方です。晴れた日には北にヒマラヤ山脈が見えます。場所はルンビニ、もともと女神ルンミンディの聖地でした。母のマーヤーが出産のため帰宅の途中、木の下でお生まれになりました。右の脇腹から産まれたという言い伝えは右側が吉祥とさされていたからです。お母様は産後すぐ亡くなられたので義母にそだてられました。生まれた子の名前はゴータマ・シッタールタ、後に釈迦族出身の聖者という意味で釈尊と呼ばれ



お釈迦様の誕生

ました。お釈迦様の一生を表したレリーフには羊に乗って学校に通う姿が表されています。写真の誕生と羊に乗る釈迦のレリーフは、釈迦一代記の彫り物としてたくさん残っています。

お釈迦様の祖先については、代々「オーダナ」（お米の意）の名前がついているところから稲作に従事していたと思われまます。王と呼ばれていましたが、おそらく小さな王国であつたのでしょう。後に隣の国に合併されてしまします。

また、お生まれになった時、仙人が「もし王様になれば理想の王である転輪聖王に、出家すれば人々を導く聖者（ブツダ）となられ

る方」と予言が残っています。

釈尊の生まれた年代には多くの説があります。主なものは、シユリランカ、ミャンマーに伝わる紀元前7世紀、中国南部では紀元前6世紀、アシヨカ王の年代に基き紀元前5世紀とするものもあります。そして、日本では紀元前5世紀が有力でしたが、最新の発掘調査で、ルンビニから紀元前6世紀の木造建築の屋根が出土し、炭素の放射性物質の検査からこの建築物が釈尊誕生の証拠の最有力とされるにいたっています。同様に釈迦族の首都、カピラバストウについてもルンビニの西と、南へ十数キロのインド領ピラバの二つの説がありいまだに決定できていません。そしてこの二か所は玄奘三蔵の『大唐西域記』にかかわる発掘でも両方の都市について記されているのです。

さとうりょうじゅん 昭和7年東京生まれ。大正大学、同大学院、インドデリー大学院に学ぶ。昭和34年より大正大学で教鞭をとり、教授、学科長を経て、平成14年退職、大正大学名誉教授となる。インドへの初渡航は昭和38年、以来インドへ訪れること、40有余回。著書は「ブツダガヤ大菩提寺」「釈尊の生涯」など多数。